

令和4年度学校評価報告書

北海道札幌西高等学校 全日制

1 本年度の重点目標

(1) PTAや学校評議員など関係団体等との連携	(2) 多様で質の高い「深い学び」を引き出す授業等の実施
(3) 対面授業と家庭学習を有機的につなげた学習体制の確立	(4) 自主的・自発的な活動の充実
(5) 探究的な教育活動の充実	(6) 高等教育機関等との連携

2 自己評価・学校関係者評価の概要と今後の改善方策

(1) PTAや学校評議員など関係団体等との連携	
ア 自己評価	・保護者アカウントを配布し、Classroom の活用を推進し、欠席連絡を Google Forms で実施した。 ・一部の PTA の会議・研修等を対面とオンライン参加のハイブリッド形式で実施した。 ・同窓会の全面的な協力を得て、1 学年におけるキャリア探究学習を実施することができた。 ・SC による教育相談や校内研修を実施したが、相談件数の増加により教育相談の回数を増やす必要がある。 ・西高グローバル・エデュケーションでは、アイルランドやシンガポールの現地での海外研修を3年ぶりに実施した。
イ 学校関係者評価	・コロナ禍に培われた ICT 技術を積極的に活用し、省力化を図る取組は、保護者にとっても有効なので、今後も継続されることを期待したい。 ・キャリア探究学習は終了後に受入企業の一部との連絡会を行うことも必要である。 ・PTAや後援会と連携し、保護者向けのキャリア教育・支援の機会を検討してもらいたい。 ・海外研修も3年ぶりなので反省を活かし、改善すべき点は検討してもらいたい。
ウ 改善方策	・キャリア教育、キャリア探究学習、海外研修等では、支援団体と連携して改善を加え、より一層の充実・発展に努める。 ・PTA と連携し、SC の派遣時間の延長など教育相談体制の一層の充実を進める。
(2) 多様で質の高い「深い学び」を引き出す授業等の実施	
ア 自己評価	・少人数による教科の枠を超えた教員のグループで公開授業週間を設定し、フィードバックシート等の活用により授業改善に繋げた。今後も教科指導の工夫・改善に係る研修を活用し、西高スタンダード(深く、しっかりとした学び)の継続・発展を推進する。 ・観点別学習評価に係るタスクフォース(教科代表で構成)により、各教科における評価の状況の情報共有を図った。さらに、「教科ルーブリックの策定」や「教科の特性を生かした観点別学習評価の実践」により「指導と評価の一体化」を推進する。
イ 学校関係者評価	・教科ルーブリックの策定等、教員への負担も多いと思われますが、有効に活用できるものが作成されることを期待します。
ウ 改善方策	・観点別評価やルーブリックを活用した評価による指導と評価の一体化を図り、実効性のある教育活動を推進する。
(3) 対面授業と家庭学習を有機的につなげた学習体制の確立	
ア 自己評価	・BYOD 初年度(1年生)に係る ICT の活用として、授業(配信)、HR(リモート)、キャリア探究学習などで実践した。 ・学校全体の ICT 活用としては、授業、総合的な探究の時間、学校行事(学校祭等)、宿泊的行事の健康観察、保護者懇談会、進路研修会などで実践した。 ・授業の手法の一つとして、ICT 活用の研究・研修を継続的に行う。 ・学習支援員に ICT の活用、BYOD 対応等で業務を支援していただき、大変助かった。
イ 学校関係者評価	・ICT を活用した授業展開など教員側の研修も大変かと思いますが、業務効率が向上することを期待します。また、生徒への情報セキュリティ講習も十分に行っていただければと思います。 ・デジタル化時代の中で、HRやキャリア探究などの場面で ICT を積極的に活用していただきたい。 ・ポストコロナになっても、可能であれば欠席時のリモート授業を継続してもらいたい。 ・ここ数年で購入した学校の i-pad の買い換え時期を想定し、対応を考えていく必要がある。
ウ 改善方策	・ICT を活用した効果的な教育活動の研究・研修を継続して実施する。 ・情報の授業や HR 等を活用し、情報セキュリティ、モラル、リテラシー等の生徒への指導を推進する。
(4) 自主的・自発的な活動の充実	
ア 自己評価	・学校祭や体育祭等では、生徒会執行部が中心となり、感染症対策を踏まえた企画・立案、運営を行い、コロナ禍における行事の取組に成果を上げた。 ・今後は、グラデュエーションポリシーをはじめスクールポリシーの周知を図るため、ピクトグラム作成など生徒会と連携した取組を進める。 ・1 学年でのキャリア探究学習、2・3 学年の「総合的な探究の時間」における探究学習を実施し、生徒の自主的・自発的な教育活動を推進した。 ・心の健康相談室等により自らの内面の悩みや不安を訴えることができる能力の向上を推進し、個別面談、SC との教育相談等の機会を整備した。

イ 学校関係者評価	・現3年生は在学期間のすべてがコロナ禍であったが、様々な工夫をして活動しているように見受けました。感染に留意しつつ、来年度はより活発に行動できることを祈っております。 ・個別面談後の次へのステップを継続してもらいたい。
ウ 改善方策	・13の資質・能力のピクトグラム作成などとおして、グラデュエーションポリシーやルーブリックの周知と活用を図る。 ・生徒の自己調整力、傾聴力、挑戦力などを高めることをねらいとした取組のより一層の工夫・改善に努める。 ・SC等と連携した教育相談体制のより一層の充実を図る。
(5) 探究的な教育活動の充実	
ア 自己評価	・「総合的な探究の時間」については、2・3学年において外部との連携を図りながら実施した。 - また、学んだことを相互に発表したり、意見交換したりする中で、課題についてさらに深めていくことができた。 - 課題発見・解決力、情報収集力、論理的思考力の向上を目指した教育活動が展開できた。 ・WRAPSの活動の映像記録化はwebページをとおして実施した。 ・今年度も、輔仁会の協力により職業観・勤労観を育成することをねらいとして実施したキャリア探究学習により情報収集力、コミュニケーション力、表現力の向上を目指した教育活動を展開した。 ・ルーブリックなどを活用して評価規準に基づいた評価やその研究を行い、探究的な学習活動をさらに充実させていくことが重要である。
イ 学校関係者評価	・「総合的な探究の時間」で外部との連携を図りつつ、同窓生企業との連携も進めていければと思います。 ・1年生のキャリア探究学習は受入企業の確保に同窓会に負担がかかっていないか懸念しており、持続的に実施可能な方法を考えていただきたい。 ・教科学習の時間を確保しつつ、キャリア教育を展開するのは大変かと思いますが、学生の進路選択に活用されることを期待します。
ウ 改善方策	・総合的な探究の時間やキャリア探究学習の成果が、13の資質・能力やグラデュエーションポリシーの獲得につながる教育活動の工夫・改善を図る。 ・総合的な探究の時間やキャリア探究学習のねらいの明確化を図り、プロセスを適切に評価するため、ルーブリックの活用など評価活動の研究・検証を継続して行う。 ・生徒に学習活動やその成果が組織的に継承されるよう、学年を超えた発表会の実施や活動の映像記録化などの取組をより一層充実させる。 ・総合的な探究の時間の指導体制について、成果と反省を検証し、教員の負担軽減を図れるよう組織体制の検討を行う。
(6) 高等教育機関等との連携	
ア 自己評価	・コロナ禍ではあったが、オープンキャンパス、大学説明会等への参加を促した。 ・感染対策を講じながら高大連携事業(北大研究室訪問、物理キャンプなど)を実施し、参加生徒の学習や進学に対するモチベーションを高めることができた。
イ 学校関係者評価	・西高生は進路選択の幅が広いと思われるので、様々な高等教育機関との連携が図れるとよりよいと思われます。 ・高等教育機関等との連携、オープンキャンパス、大学説明会等へはさらなる実施の促進を要望します。 ・コロナ禍での経験をさらに今後に活かしていただきたい。
ウ 改善方策	・連携した教育活動の成果が13の資質・能力やグラデュエーションポリシーの獲得につながる内容の工夫・改善を進める。 ・北大法学部との連携講座など、理系だけでなく文系学部とも連携し、内容の充実を図る。
公表方法	学校 Web ページ